

あなたの心にジャストミート 8月6日メッセージ
イエス様の贖いと信者の願い (マルコ 10:32-45)

神様の恵みによって救われ、神様とともに歩む信者なのに、願いが変わらないと同床異夢になり、答えが見えなくなります。今日の聖書箇所では、改めてイエス様が死と復活を語られたのに、弟子たちは、イエス様とまったく逆のことを求めていたので、しもべになりなさいと言われました。クリスチャンが、何ために、どのように生きるべきかを語られたのです。なぜ、弟子たちは十字架の話をされても、願いが変わらなかったのでしょうか。

1. キリストの贖いの死を知り感謝すると、
信者の願いは変わる。

1) 贖い(救い)を否定することだらけのこの世一哲学、宗教、思想、教育、映画、音楽、美術、小説、漫画、アニメ

すべての根幹はヒューマニズム

時代はどうかであっても、世の中は救いを否定することだらけです。宗教は自分を磨くことが根底にあり、思想やイデオロギーは人がどうかで変わると教え、学校教育の根幹も知識を積み重ねれば人生が変わると教えます。つまり、世の流れの根幹はヒューマニズムで、キリストの贖い(救い)はいらないと言うのです。それが形になって、文化の作品になっています。救いには絶対に耳を貸そうとしません。

2) キリストの贖いの他に希望がないと認めるところから

-救い-歴史のテーマ、存在の理由、人生の願い

神様の恵みで救いに預かった私たちは、心

の中心から、キリストの贖いの救い以外に希望はないと認める必要があります。真実な思いで神様の前に立って「罪のない神の子キリストがここまでしてされる救いとは何か、価値はどんなことか」と問いましょ。十字架の前に立って、主のみことばを聞きましょ。

救いとは、歴史のテーマであり、この救いのために歴史が動いています。そして、人間の存在理由は、救われるためです。自分の人生にあったすべてのことは救われるためです。ですから、救いは絶対価値があります。神様ご自身がいのちを身代わりとされたほどの価値があるのが救いです。それが分かるなら、クリスチャンの残りの生涯の願いは、救いになるはずです。

3) 贖いの感謝がないと願いは以前のまま、葛藤と争いも以前のまま(3,6,11の欲)

救いの価値が分かるなら、願いは変わりません。しかし、感謝がないと、願いは以前のままです。聖書はそれは肉の欲だと明確に言っています(ヤコブ 1:15、1テモテ 1:6、1ヨハネ 2:10-17)。

2. 魂の救いが願いになると、生きる姿勢が変わる。

1) ペリピ 2:5-8

キリストの贖いの死を正しく知り、感謝すると、たましいの救いに願いが変わり、生きる姿勢が変わります。イエス様は仕えるために来られました。そのイエス・キリストの心構えを持ち、見る目が変わるのです。

2) 人の救いと救いを味わうことを第一にして

救われるべきたましいであり、救いのために用いられる人だという目で人々を見るようになります。

3) 自分を無にして、聖霊の導きに

自分の考え、レベルや主張、理屈、ルールなどを超えるようになります。聖霊の導きを受けようと祈るようになります。

4) 仕える人

人の救いは人によってではなく、イエス・キリストの贖いによって、栄光の光が照らされて、神様がなさることです。その時刻表を待って、仕える者の姿勢で待ちます。私の力ではできないので祈ります。人をさばいたり、批判する資格もありません。自分のような者を救ってくださり、今まで守り、愛して下さっていることを覚えつつ、祈るのです。

パウロは異邦人の救いのために囚人となったことも喜んで受け入れると言いました

(エペソ 3:1)。それが仕える姿勢です。また、キリストとともにいたい、教会のため、人々のために肉に留まる(ペリピ 1:23-24)と言いました。イエス様が言われた新しい戒めは「互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 13:34)と言われました。救いが必要なので、仕える者となりなさいと言われたのです。

願いが変わらないと、祈りが変わらず、つまり理由も変わりません。変わるなら、危機、葛藤、問題の中を見て、仕える者の力や姿勢を持ちます。

イエス様の贖いの死の前で救いの絶対必要と絶対価値に目覚めて、自分の願いを点検しましょう。イエス様の心構えで仕える姿勢を決心しましょう。

イエスの贖いのことを思い感謝して、願いは人のたましいの救いなので、現場で仕える者となり、そうしていると征服者となります。

そのことに抵抗する自分が内側にいるので使徒 1:8 を握って 14 の祈りに入りましょ。

1 部-マルコ 10:32-45 イエス様の贖いと信者の願い

なるほど/キリストの贖いを知り感謝する信者は、魂の救いが願いになり、仕える者として生きる姿勢が変わり、人を生かすことが出来る。

ならば/イエス様の贖いの前に立って、救いの絶対価値に目覚めて、自分の願いを点検し、仕える心構えで使徒 1:8 を握って 14 の祈りに入ろう！

2 部-使徒 16:11-14 飢え乾いてる魂を求めて

なるほど/聖書を「魂の救いを目標に、イエス様が語られたことを契約に、そしてイエス様が自らその契約を成就し答えになる」と見ると、御言葉は生きて働くようになり、飢え乾いた魂が起こされる。

ならば/飢え乾いてる魂が待っていることを契約として握り、聖書が私の中に生きた御言葉になることを祈ろう！受け入れの運動と御言葉の運動がなされることを夢見て、祈り備えよう！